

# 浦舟だより

平成31(2019)年 4月8日

第1号(第238号)

横浜市立浦舟特別支援学校  
E-mail: ysurafun@edu.city.yokohama.jp

## 春を迎えるに

校長 長岡 利保

朝、行き交う人たちとの挨拶の声が大きくなり、暖かな春の陽気に社会全体が活気づいてきたようで、気持ちのいいスタートができました。

浦舟特別支援学校も無事、春を迎えることができ、3月14日には無事に卒業式を終え、小学生、中学生が大きな希望に胸膨らませ、笑顔でそれぞれの道へ巣立っていきました。充実した日々を送っていただけるよう職員一同願っております。また、3月までこの学校を支えてくれた多くの先生方は、新しい場所でまた力を発揮することとなり、それに代わって、4月から新たなメンバーが加わりました。一緒にチームワークを大切にしながら、記念すべきこの年をみなさんで進んでいきましょう。



4月1日には新元号の発表がありました。約30年間慣れ親しんだ「平成」には、「国の内外、天地とも平和が達成される」という意味が込められていたそうです。新元号は『令和(れいわ)』となりました。出典は万葉集で、全体の意味は、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」ということだそうです。「令」には「清らかで美しい」という意味も含まれ、「和」は「まるくまとまった状態」という意味があり、「若者が希望を持って」という趣旨の説明がありました。その時代、その場所のリーダーが若者に次代を上手に託していくことにより、若者が未来を見つめて、元気にはつらつと活躍してくれることでしょう。漠然としていますが、未来に、若者に、期待したい気持ちになりました。

ところで3月には、野球に関して個人的に驚いたニュースがありました。大リーグで活躍した45歳のイチロー選手の引退です。昭和49年に巨人軍の長嶋茂雄が引退したとき、学生だった私は、普段読まないスポーツ新聞を何部も買いましたが、それ以来の驚きでした。輝かしい記録とともに記憶に残る選手ですが、継続することの大切さを改めて教えられました。

比べるべくもありませんが、私も校長として浦舟で5年目を迎えることに、改めて責任を感じております。この4年間、病弱教育に携われることに喜びを感じつつ、自分の無力さを感じることもありました。いま一度、気持ちを引き締め直して、浦舟や他の病弱学校の子どもたちのために何ができるのかしっかり考えながら進んでいきます。



※このフォントはUD(ユニバーサルデザイン)デジタルで、より見やすくしております。